

学校からはじめよう、エコタウンづくり

＝えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校＝

平成29年度
グリーンプラン推進校
報告書



特定非営利活動法人えどがわエコセンター

環境教育・人材育成委員会

1.グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

条 件

- 対象は江戸川区内の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に総合学習の年間計画や出前授業等についてうかがいます。
- 2年連続の参加はできません。
- 中間報告・最終報告の提出や報告会への参加をお願いします。

2.えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政やNPO/NGOと連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』をめざしています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、さまざまな事業を展開しています。

-
- えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒にいろいろな活動に取り組んでいます
- 地球温暖化防止・・・「みどりのカーテン」モニター講習会・交流会など
 - 資源循環・・・生ごみリサイクル講習会、おもちゃの病院など
 - 自然環境保全・・・水辺環境調査、東なぎさクリーン作戦など
 - 仲間づくり・・・すくすくスクール放課後環境教育、小中学校出前授業
おきがる環境講座、「エコカンパニーえどがわ」の推進など
-

3.平成29年度グリーンプラン推進校

小学校（9校）

平井西小学校 平井東小学校 西一之江小学校 宇喜田小学校 清新ふたば小学校
鹿本小学校 鹿骨東小学校 南小岩第二小学校 中小岩小学校

中学校（2校）

小岩第三中学校 上一色中学校

目次

	中間報告	最終報告
平井西小学校	・・・・・・・・・・ p. 4	・・・・・・・・・・ p. 28
平井東小学校	・・・・・・・・・・ p. 6	・・・・・・・・・・ p. 30
西一之江小学校	・・・・・・・・・・ p. 8	・・・・・・・・・・ p. 32
宇喜田小学校	・・・・・・・・・・ p. 10	・・・・・・・・・・ p. 34
清新ふたば小学校	・・・・・・・・・・ p. 12	・・・・・・・・・・ p. 36
鹿本小学校	・・・・・・・・・・ p. 14	・・・・・・・・・・ p. 38
鹿骨東小学校	・・・・・・・・・・ p. 16	・・・・・・・・・・ p. 40
南小岩第二小学校	・・・・・・・・・・ p. 18	・・・・・・・・・・ p. 42
中小岩小学校	・・・・・・・・・・ p. 20	・・・・・・・・・・ p. 44
小岩第三中学校	・・・・・・・・・・ p. 22	・・・・・・・・・・ p. 46
上一色中学校	・・・・・・・・・・ p. 24	・・・・・・・・・・ p. 48

平成 29 年度 えどがわエコセンター
グリーンプラン推進校 中間報告

学校名	平井西小学校	対象学年と人数	第4学年
活動名	あなたはどうやってごみをへらしますか？		
指導者	学内指導者： 本間三咲子・青木真央 学外支援者：高田直子・岡本正義・西寿子 (役割分担) クラス3グループでグループ毎に話し合いと体験を進める。		

目標

ごみをリサイクルする、リユースする、リデュースすることによって、ごみがへり、生き物に優しい、きれいな地球が守れ、地球温暖化も妨げられることに気付く。

進捗状況

えどがわエコセンター環境教育プログラム No. 12
「あなたはどうやってごみを減らしますか？」

9月22日(金)

3時間目から6時間目に実施

3・4時間目に4年1組、5・6時間目に4年2組

授業の概要

- ① きれいな地球を画像で見る。
- ② 実際のごみを江戸川区の方式で分別してみる。
- ③ 牛乳パック、ペットボトルをごみとしないための工夫を学ぶ。
- ④ ごみをへらすことでどんなよいことがあるか？あなたは何をやるか？話し合う。

活動写真等

○ごみの学習について興味関心をもつ

日本人は1日に1kgのごみを出している。1kgを体感する



○ごみの分別が江戸川区ではどうなっているのかを知る。

実際に子供たちが分別をどう理解しているか知る。



○ごみを減らすにはどうしたらいいかを考える

ごみをへらすとどんなよいことがあるのか?グループ毎に話し合い、発表する。



3R (リサイクル
リユース・リデュース) に
ついてたくさん学べた。

学校名	平井東小学校	対象学年と人数	3・4年 90名
活動名	干潟の生き物		
指導者	学内指導者：五十嵐 真弓、武藤 麻衣、渡邊 弘人、磯部 晶子 学外支援者：高木先生（江戸川区子ども未来館主任専門員）、 星野先生（えどがわエコセンター 下平井水辺の楽校）		

目標

- ・ 荒川の干潟でとった植物や生き物を仕分け・観察・記録することを通し、身近な荒川の環境について知り、大切にしていこうという気持ちをもつ。

進捗状況

えどがわエコセンター環境教育プログラム No. 16 <荒川学習>

〇6/9（1～4校時）「干潟の生き物学習」3年生

〇6/12（1～4校時）「干潟の生き物学習」4年生

下平井水辺の楽校付近において、干潟の生き物を捕り、捕った生き物をグループで観察し合う。

観察カードを用いて、生き物についてわかったことや気付いたことを話し合いながら記入する。その後、高木先生から荒川の生き物について解説していただき、「生き物にとって良い環境とは？」「私たち人間がしてあげられることは何か？」など、一人一人の児童が自分の考えをもつ。

4年は、総合の時間に荒川にすむ生き物についてわかったことをリーフレットなどにまとめる学習を行う。2学期には、「草原の生き物学習」があり、干潟とは違った生き物について学習する。

4・5年では、「クリーンエイド」から荒川付近にはどのようなごみがあり、そのごみが生き物に与える影響を考える学習を行う。6年は、荒川の水質調査を行う。

活動写真等



平成29年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	理科委員会 17名 4年 128名
活動名	西一環境教育		
指導者	学内指導者：橘川朋成		

目標

以下の活動を通して、人が生きていくために、環境保全が必要であることを知り、自然を大切にする姿勢を育てる。

- ① ゴーヤを栽培し、グリーンカーテンを作る。
〈えどがわエコセンター「みどりのカーテン」モニター制度を活用〉
- ② 野菜を育てる。
- ③ 打ち水を行う。

進捗状況

各活動の進捗

- ① 6月 ゴーヤの苗植え
8月 日照不足のため不調
9月 日照が回復し葉が茂る。グリーンカーテンとしての機能を果たす。
子供達は日照不足にもかかわらず成長したゴーヤの姿に自然のたくましさを感じた。
- ② 6月 苗植え
8月 きゅうりの収穫
9月 ゴーヤの収穫
野菜を育てることで、普段店で手軽に買っていた野菜を育てることの難しさを知り、作物を大切にす
る心情を育成させた。
- ③ 8月 打ち水実行
簡単な方法で体感温度を下げられることを知り、自分たちも環境問題に取り組むことができるという
考え方が芽生えた。

活動写真等

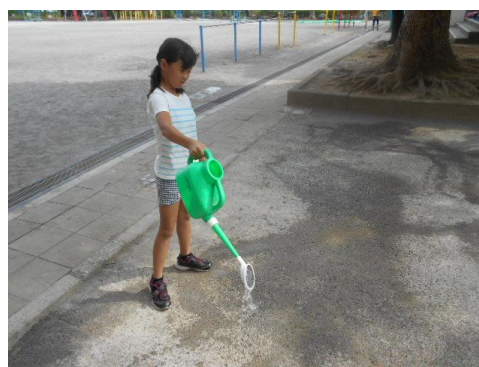
ゴーヤの栽培



野菜の栽培



打ち水



平成29年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	宇喜田小学校	対象学年と人数	3年 94名
活動名	グリーンカーテンプロジェクト		
指導者	学内指導者： 飯野智人 遊佐陵汰 正岡奈津子 五十嵐よし子		

目標

つる科の植物を育て、グリーンカーテンを作り、カーテンの内の温度を下げるとともに、植物を育てる中で、自然を大切にしようとする態度を育てる。

進捗状況

本校の3年生がグリーンカーテンづくりに取り組むのも3年目となった。1, 2年目は、ツルレイシやヘチマ、ひょうたんを植え取り組んだが、ネット一面にツルが伸び、葉で一面を覆い尽くすまでは育たなかった。そこで、今年度は「琉球朝顔」でグリーンカーテンづくりに挑戦した。

グリーンカーテンづくりに取り組む前に地球温暖化について、えどがわエコセンター環境学習出前講座プログラム No. 2「地球の環境にやさしい生活を学ぶ」を導入として扱った。地球温暖化の影響で水面上昇の被害を受けているツバルの動画を見たり、エコな生活が分かるパズルの組み立てを友達と協力して行ったりする中で子供たちはエコな生活について考えることができ、よい動機付けとなった。

次にグリーンカーテンづくりでは、子供たちが水やりをし、大切に育て始めた。夏休みになるとつるがさらに伸びだし、つるが偏らないように教員がはしごを使って調整し、全面を覆うことができるように気を付けながら育てている。

2学期、グリーンカーテンの内と外の気温を図る実験を行う。第3学年の理科で初めて使う温度計をこの学習で使い、温度計の使い方をしっかり理解できるようにし、その後の理科の学習でスムーズに使えるようにしていく。

活動写真等

出前授業の様子



出前授業の様子



ツバルの動画から、地球温暖化が深刻な問題であることを思う児童が多くいました。また、エコな生活について、パズルを組み立てる活動を通して、みんなが協力することの大切さや自分にできることは何かを考えるきっかけになりました。

グリーンカーテンの様子



琉球朝顔に水やり（夏休み）



琉球朝顔に水やり



今年度より「琉球朝顔」を利用してグリーンカーテンづくりに取り組んだ。つるがたくさん伸び、ネットにしっかりと絡み、葉がカーテンのように一面になった。

2学期になり、天候がよくない日が続いている。天気予報を見ながら、実験の日時を設定していきたい。そして、子供たちには、実験を通してグリーンカーテンのよさに気付かせていきたいと考えている。

平成29年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	2年生72名、4年生73名 環境整備委員会、理科委員会
活動名	ふたば小グリーン・エコプラン		
指導者	学内指導者：2学年担任（奥澤・畑・庄山）4学年担任（大矢・外池）委員会担当教諭 学外支援者：大和地 弘一（えどがわエコセンター）、高木 嘉雄（江戸川区子ども未来館） 公益財団法人日本環境協会 高田 直子、吉野 榮一、岡本 正義		

目標

- 自然や環境に関心をもち、生命尊重や自然愛護、地球環境を大切にする態度を育てる。
- 学校近隣の自然や、そこに生きる生き物について調べることにより、自然環境についての学習を深める。
- リサイクル活動などを通して、環境保全やリサイクルに対する意識を高める。
- 植栽活動を通して、緑化や美化の推進に対する意識を高める。

進捗状況

○出前授業（2年生・生活科）

えどがわエコセンター環境教育プログラム（身近な生きものにふれてみよう・生きものさがし）を実施。校庭の樹木や植物に住む生き物を取り上げ、採集や観察をすることで、身近な自然への関心を高めるとともに、改めて自然の大切さを体感させた。

○環境整備委員会集会（6月22日（木）に実施）

ごみの分別方法、資源リサイクル、ペットボトルのキャップ回収について紹介し、クイズ形式で全校児童に環境整備について呼びかけを行った。また、7月4日～6日でエコキャップ運動（ペットボトルのキャップ回収）を行い、地球温暖化防止やリサイクルについての啓発活動を行った。

○今後、理科委員会が学校応援団や地域の方々と共に植栽活動を行ったり、4年生が、えどがわエコセンター環境教育プログラムNo.1 2「あなたはどうかやってごみを減らしますか？」などを活用した環境学習を実施したりすることで、学校全体の環境教育を推進していく予定である。

活動写真等

2年生・出前授業



環境整備委員会集会



エコキャップ運動



学校名	鹿本小学校	対象学年と人数	4学年 30名
活動名	ツルレイシを育ててグリーンカーテンを作ろう		
指導者	学内指導者： 岩井 恵理香		

目標

〈えどがわエコセンター「みどりのカーテン」モニター制度を活用〉

- ・ ツルレイシの成長を観察しよう
- ・ グリーンカーテンを作ろう

進捗状況

- ・ 5月に植えたツルレイシが成長して学校の2階の高さまで成長した。
- ・ 実がたくさんなり、夏休みの水やり当番の子ども達が取って家庭に持ち帰っている。

活動写真等



学校名	鹿骨東小学校	対象学年と人数	全学年 474名
活動名	学校や地域の自然と仲良くなるろう		
指導者	学内指導者：本田貞美（副校長）岩崎保佳・中村公美（グリーンプラン担当教員）他全教職員（活動指導） 学外支援者：グリーンボランティア（栽培活動支援）12名 えどがわエコセンターボランティアの皆様7名		

目標

- ・学校や地域の自然（都立篠崎公園・鹿骨親水緑道）の観察等を通して、身近な自然に関心を持ち、自然と親しみ関わりあう子どもを育てる。
- ・花の町鹿骨にある学校として、栽培活動に取り組み、自然を愛する心をそだてる。
- ・地域の環境に関心を持ち、3R活動等を学級で取り組む。

進捗状況

学校地域の自然に関心を高めるように栽培活動や自然観察活動を計画的に実施している。また、徳育部を中心に、自分たちのできるエコ活動として、3Rへの取り組みを行っている。

<自然と親しむ活動>

- ・4月21日、9月1日、4年生 理科 篠崎公園の自然観察を行う。今後2回実施予定。
- ・6月30日、えどがわエコセンターの方々を招き、鹿骨親水緑道の水の中の生き物の観察を行う。

<花や野菜を育てる活動>

- ・6月22日 1年生 生活科 アサガオ栽培農家の方にアサガオの育て方についての指導を受け
- ・5月12日 グリーンボランティア組織を立ち上げることを保護者に呼びかけ、12名のメンバーが集まり、栽培活動の支援をお願いした。
- ・5月18日には5年生が総合的な学習で田植えをする。水の管理やスズメ除けのネットの設置などをグリーンボランティアに支援をお願いする。
- ・4年生はふるさと学習としてヒョウタンの栽培を始める。つるの誘因、ネットの設置、夏季休業中の水やりや草取りの支援をお願いする。

<環境をよくする活動>

- ・「クリーンアップ集会」「もったいない運動集会」（各2回）を児童集会として計画し、実施している。給食の残菜を無くすこと、ごみの分別など、もったいない運動や3Rについて学級でも目標を立て、実践している。全校児童がこどもエコクラブの一員としての意識をもつように指導していく。

活動写真等

学校や地域の自然と親しむ活動



学校の横を流れる親水緑道の生き物探し



季節ごとに篠崎公園の生き物の観察

花や野菜を育てる活動



地域のアサガオ栽培農家の方から育て方を学ぶ



グリーンボランティアのご指導で稲刈りをする

環境をよくする活動



児童集会で「もったいない運動」を全校に呼びかけた。

1回目は給食委員会児童が、「給食を残さず食べよう」と、2回目は環境整備委員会の児童が「ごみの分別について」をテーマに劇を交えて発表した。

今後は各学級で3R等を考え、学級後の行動目標を立てる予定である。

学校名	南小岩第二小学校	対象学年と人数	4年生
活動名	すすめ！エコロ人！（総合的な学習の時間）		
指導者	学内指導者：小島雄貴 吉田朋美 学外支援者：えどがわエコセンター大塚留美さん、水上泰輔さん、池田進さん		

目標

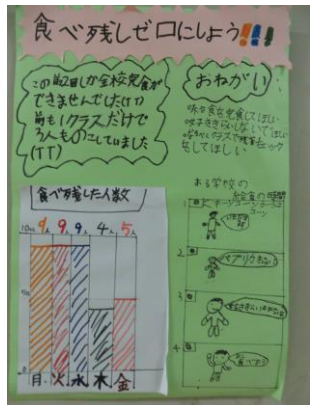
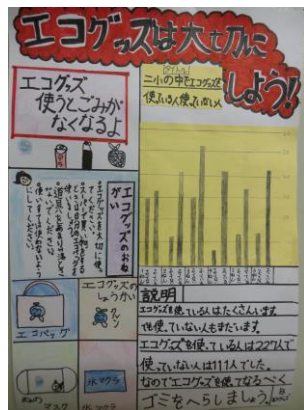
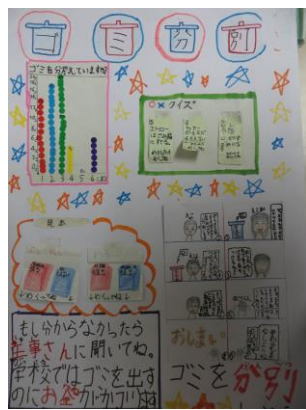
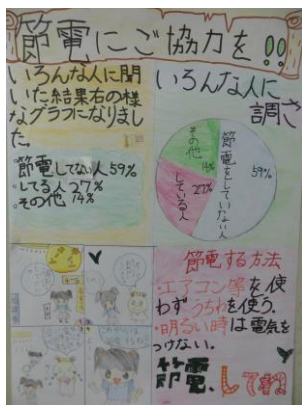
江戸川区でエコ活動をしている人の思いに触れ、江戸川区のエコに対する取り組みを知ること、自分たちの未来の環境について考え、自分の生活に生かそうとする。

- ごみ問題とエコ活動の必要性
- 環境の保全や資源の有限性に対する理解とそれらの活用
- 食生活を取り巻く社会問題や現状と自分たちの生活とのかかわり

進捗状況

- ①児童は、江戸川区広報課の「えどがわ区民ニュース」の食品ロスのトピックをきっかけにしてエコについて興味をもった。
- ②他の学年の児童や主事にアンケートやインタビューを行い、エコ活動についての情報を集めた。
- ③担任が読書科でエコについて資料を用意したところ、児童は理科で学習した「ツルレイシ」のグリーンカーテンと結び付け、「グリーンカーテンでエコに取り組みたい。」という思いをもった。思いが強まった児童は、自主的に「環境フェア」に参加し、グリーンカーテンについて学んだ。
- ④「グリーンカーテンの作り方が知りたい。」と、児童は国語で学習した「手紙の書き方」、「丁寧な言葉遣い」を活用して、エコセンターの大塚さんに電話で連絡を取り、ゲストティーチャーとしてエコセンターの方々をお呼びすることができ、グリーンカーテンについて詳しく学んだ。
- ⑤学級会では、「グリーンカーテンにするか。」「カーテンを屋根上にしてトンネルにするか。」で意見が分かれ、根拠を示しながら議論をした結果、トンネルにすることに決まった。グリーンプラン推進校としての予算で、トンネルを作るための鉄パイプの枠を設置した。児童は、今年度限りではなく、来年以降も継続して活用することも視野に入れている。
- ⑥児童はグリーンカーテンと同時並行で「節電」や「エコグッズ」を調べたり、社会で学習したごみ問題から「ごみの分別」や「食べ残しゼロ」を呼びかけたりした。その際、パソコンで抽象的な情報を集めるよりも校内を歩き回ってインタビューやアンケートを取ったり、実際に食べ残しや分別状況を見て回ったりして現状把握に努めた。現状をわかりやすくまとめるために算数で学習した「棒グラフ」「折れ線グラフ」だけでなく、5年生で学習する「円グラフ」も児童自ら調べてポスターに取り入れてまとめた。
- ⑦5年生になったら、委員会活動が始まる。児童の振り返りの中には、「美化委員になれば、ごみの分別がもっと進められる。」「保健給食委員になって、食べ残しをゼロにする。」とこれからの自分の生活の仕方を考える児童が多く見られた。
- ⑧ツルレイシの種はとっておき、3年生への「グリーンカーテン引き継ぎ式」も計画している。

活動写真等



平成29年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	中小岩小学校	対象学年と人数	全学年 366名
活動名	中小岩小の環境学習		
指導者	学内指導者：全教職員（児童管理・指導） 学外支援者：えどがわエコセンター（講師）		

目標

- 学校における環境保全活動の更なる推進
- 児童・家庭・地域の環境保全活動への理解の推進（全学年における環境学習の実施）

進捗状況

☆環境教育プログラム（えどがわエコセンター）

1・2年生「地球の環境にやさしい生活を学ぶ E☆カプセル」

1年生 9月 9日（土）学校公開にて実施 2年生 9月26日（火）実施

3年生「身近な生き物（自然）にふれてみよう」

6月 7日（水）実施

4年生「3Rって何だろう？」

6月15日（木）学校公開にて実施

※6月 9日（金）関連し、小岩清掃事務所の方々からも「ごみの分別」について学習。

☆環境学習（校内）

5年生「江戸川について学ぼう」 ※現在計画中 2学期実施予定

6年生「地球の環境問題について学ぼう」 ※現在計画中 2学期実施予定

☆環境委員会による環境保全活動

年間を通した、井戸水利用のための井戸水汲み、省エネのポスター作り、呼びかけ等

☆全児童による環境保全活動

雨水ダムを使った花の水やり（1，2年、みどり学級）

節電（3，4年） 節水（5，6年）見回り活動による省エネ

☆教職員、PTAによる環境保全活動

花植え、壁面緑化等の推進

☆こどもエコクラブへの登録

活動写真等



1・2年生 地球の環境にやさしい生活を学ぶ E☆カプセル



3年生「身近な生き物にふれてみよう」



4年生「3Rって何だろう？」



「ごみの分別について学ぼう」

学校名	小岩第三中学校	対象学年と人数	一学年 190人 生物環境部 30人
活動名	1. 燃料電池 2. ゴーヤカーテン 3. 屋上緑化		
指導者	学内指導者： 永野 美智代 学外支援者： 金子有子（東京ガス） 水上 泰輔（えどがわエコセンター） （役割分担） 出前授業 ゴーヤ指導		

目標

- | | |
|------------|--|
| 1. 燃料電池 | <ul style="list-style-type: none"> 燃料電池について実験を通して学習し、地球温暖化防止に貢献するエネルギーのすばらしさを学ぶ。（一学年） <えどがわエコセンター環境教育プログラム No. 6 を活用> |
| 2. ゴーヤカーテン | <ul style="list-style-type: none"> ゴーヤを育てることを通して植物に親しむ。 ゴーヤカーテンをつくることにより、室内へ入る太陽光線を緩和することができることを知る。 <えどがわエコセンター「みどりのカーテン」モニター制度を活用> |
| 3. 屋上緑化 | <ul style="list-style-type: none"> 屋上緑化作業を通して、ヒートアイランド現象を防ぐ。 |

進捗状況

1. 燃料電池

株式会社東京ガスのインストラクター3人による実験と講義が行われた。風力発電、太陽電池などを学んだ後に、生徒一人一人が燃料電池を使って、実際に水素と酸素が反応して電気ができることを体験した。生徒たちは、楽しく、わかりやすかったと感想を述べていた。

2. ゴーヤカーテン

校庭に面した教室の防球ネットにゴーヤカーテンをつくり、教室の冷房使用量を抑えようと作業を進めたが、校舎全面の塗装工事が入り中断せざるを得なかった。ゴーヤはすでにつるを伸ばしていたが、屋上に移植した。えどがわエコセンターの支援をうけ、現在、実をつけた苗もある。

3. 屋上緑化

屋上に、空心菜、モロヘイヤ、ミニトマトを夏野菜として育てている。来春に向けて、スイセンなどの球根をうえようと計画している。

4. ビオトープ

屋上にビオトープをつくり、現在、カダヤシを飼育中。



屋上へ植え替えたゴーヤ



屋上緑化（サトイモ）



屋上緑化（ニンニクの収穫）

平成29年度

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校中間報告

学校名	上一色中学校	対象学年と人数	全校生徒308人
活動名	上中グリーンプラン		
指導者	学内指導者： 副校長 用務主事 学外支援者： (役割分担) 生徒ボランティア-アクアポニックス担当		

目標

- アクアポニックスを利用した環境学習を行う。
- 学校応援団の協力を得て、学校内の花いっぱい運動を広げていく。
- 1年生で区的环境学習に参加し考えるきっかけをつくる。

進捗状況

- 今年度から担当が変わり、係も全校朝礼で話をして、ボランティアを募った。
- ボランティアは3年5名、2年1名で、主にアクアポニックスというオリジナルの循環型生態系の世話をしている。
- アクアポニックスは、金魚に餌を与えると排出物トアンモニアを生成する。その水が上に運ばれ自然発生したバクテリアが植物の栄養となる。植物はレタスやパセリを育てた。
室内でも、特殊な蛍光灯を使用することにより、色鮮やかな野菜を収穫している。玄関に置いているので来客からも注目されている。
- ボランティアでこの仕組みを含め、生徒会朝礼などを利用して全校に発表するなど、生徒にさらに関心をもってもらうようにしていきたい。
- 環境に関する出前授業は三学期に一年生を対象に実施予定である。

校門前の花壇一季節で植え替えています。 季節により植え替えています。



金魚と野菜等が共存する生態系—水を変えず育てます。



アクアポニックスで育てたレタス—特殊な蛍光灯を使用します。



肥料がなくても、光と循環した水で育ちます。

ハーブは育てやすかったです。

学校公開など来校された方も興味をもっていただいています。

下に水槽があり、金魚を育てています。全校生徒のアイドルです。

平成 29 年度 えどがわエコセンター
グリーンプラン推進校 最終報告

学校名	平井西小学校	対象学年と人数	全学年
活動名	地球の環境問題や身近な環境について		
指導者	学内指導者：全担任 学外支援者：えどがわエコセンター、東京海洋大学、葛西臨海たんけん隊等		

目標

- ・環境に関する知識の気付きを与え、日常生活での取組が環境に対して大きな影響を与えることに関心をもつ。
- ・映像や画像、クイズや体験を交えながら、地球温暖化の仕組みや問題点について知るとともに自分たちの日常や学校生活を振り返る中で生じた疑問や関心について考え、身近なことから行動を起こせるようにする。

成果

- ・えどがわエコセンター等の交流を通し、いろいろな手法で世界の現状を直視しつつ、今私たちがすべきことを学ぶことができた。
- ・人間にとって大切なものを、専門家との出会いによって、自分自身を見つめる機会となった。
- ・今後も、私たちにとって、持続可能な取組の出発点として学ぶことができた。

感想・課題等

- ・今年度はじめて出前授業を中心に持続可能な取組ととらえ体験した。今後も引き続き行い、大きな視野に立って世界の現状を直視しつつ、今できることを子供たちと一緒に考えていく。
- ・出前授業では、凝縮された短時間で行われたが、他の教科と重ねて学習過程をとらえ、もっと長期間に渡って取り組めたらと考える。年間の学習計画を考え、どの時期にどの学年が何をするのかを学校として取りまとめ学習していけたらと考える。
- ・今回、専門家の方の協力がなければできなかった場面も多々あったが、その点を校内体制だけでできるのかを検討しつつも、自分たちでできることとえどがわエコセンターの協力のもと、連携した体制で進めていけたらと考える。
- ・大枠の環境問題については、もっと別な角度からのアプローチもあり、今回とは違ったアプローチの仕方を次年度実施することは次年度の課題としたい。
- ・グローバル社会において、学校教育における主体的対話的な深い学び合いを目指し、学ぶことと社会とつながりを意識し、「何を教えるのか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要と考える

活動報告（活動写真）

【第3学年】

○E☆カプセルを組み立てる。
環境に優しくない生活はどんなものかを
考えながら、取り組みます。



【第4学年】

○ごみの分別が江戸川区ではどう
なっているのかを知る。



【第5学年】

○東京湾プランクトンの観察



【第6学年】

○再生可能エネルギーの体験（太陽光発電を利用し、○普段の生活から温暖化防止ができないか考える
掃除機を動かす。）



学校名	平井東小学校	対象学年と人数	4・5年 117人 ひまわり学級4・5年 6人
活動名	荒川クリーンエイド		
指導者	学内指導者：武藤麻衣、渡邊弘人、清水茜、水野恵一、藤田由美子、磯部晶子 学外支援者：星野先生（下平井水辺の楽校）		

目標

- ・荒川のゴミ拾いをするを通し、どのようなゴミがあるのかを調査し、自然や社会への影響について考えをもつ。
- ・ゴミを減らすためにはどうすればよいかを考え、身近な環境である荒川を大切にしていこうとする気持ちをもつ。

成果

4・5年生は、これまで、草地や干潟の生き物を調査し、身近な荒川の環境について知ることができた。年間を通した最後の実地活動として、荒川クリーンエイドでは、生き物たちへ悪い影響を及ぼす河川ゴミについて調査することができた。

4年生にとっては初めての体験で、想像以上のゴミの量や多様な種類に驚きととまどいを感じた様子だった。調査して終わりではなく、学校に戻ってから、ワークシートや新聞に自然への影響について考えをまとめることができた。ゴミを減らすため・生き物を守るために、自分たちができることについて考えをもつことができたのは、クリーンエイド活動での成果と考える。

また、エコセンター出前授業を受けさせていただき、ゴミを減らすための方法を事前に考えることができた。その時にもった考えや経験が、クリーンエイド活動に活かされていた。

感想・課題等

【感想】

年間を通して、各学年の発達段階に応じた環境学習プログラムを実施していただき、身近な荒川や生き物について調査してきた。昨年度に引き続き、低学年では「草地にすむ生き物」、中学年では「干潟にすむ生き物」、高学年では「環境問題」を中心に見識を深めることができた。

各学年で得た知識を積み重ね、身近な荒川の環境を大切にしようとする考えや、エコについての積極的な姿勢をこれからも育てていきたい。

【課題】

環境学習プログラムの内容はとても充実しており、普段なかなかできないことを専門家の先生のご指導のもと経験することができている。毎時間、子どもたちにとって心に残る活動や学びである。しかし、その学び得たことを、体験していない友達や家族・地域の方々に発信する手段や機会が確立できていないことは課題である。他校での活動報告を参考にしながら、本校でも発信することに力を入れていければ、さらに充実した環境学習になると考える。

活動報告（活動写真）



学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	理科委員会 17名 4年 128名
活動名	西一環境教育		
指導者	学内指導者： 橘川朋成 福田昌子		

目標

以下の活動を通して、人が生きていくために、環境保全が必要であることを知り、自然を大切にする姿勢を育てる。

- ① ゴーヤを栽培し、グリーンカーテンを作る。
- ② 野菜を育てる。
- ③ 打ち水を行う。

成果

- ① 6月 ゴーヤの苗植え
8月 日照不足のため不調
9月 日照が回復し葉が茂る。グリーンカーテンとしての機能を果たす。
11月 ゴーヤ撤去
子供達は日照不足にもかかわらず成長したゴーヤの姿に自然のたくましさを感じることができた。
- ② 6月 苗植え
8月 きゅうりの収穫
9月 ゴーヤの収穫
野菜を育てることで、普段店で手軽に買っていた野菜を育てることの難しさを知り、作物を大切に
する心情を育成させた。
- ③ 8月 打ち水
簡単な方法で体感温度を下げられることを知り、自分たちも環境問題に取り組むことができるという
考え方が芽生えた。

感想・課題等

植物を用いて環境教育を行ったが、天候に左右され当初イメージしたような成果につながらなかった。
悪天候ながらも学ぶべきこともあったが、やはり児童には大きなゴーヤを見せてあげたかった。

野菜の方は小ぶりながらも一応収穫できた。まがったきゅうりやひび割れたなすを見て、売り物の野菜との違いに興味をもつ児童の素直な感性が素晴らしかった。

打ち水は昔ながらの方法でありながら、思った以上の効果があり、児童の反応が大きかったことが印象深かった。日本は昔から自然とともに歩んできたエコな国であることを実感することができた。他にも昔の知恵に学ぶべきことがあると思う。

このような活動を学校全体に広げるのが今後の課題である。打ち水のような簡単なことからでも始められるので、徐々に広げていきたい。

活動報告（活動写真）

ゴーヤの栽培



野菜の栽培



打ち水



学校名	宇喜田小学校	対象学年と人数	3年 94名
活動名	グリーンカーテンプロジェクト		
指導者	学内指導者：飯野智人 遊佐陵汰 正岡奈津子 五十嵐よし子		

目標

つる科の植物を育て、グリーンカーテンを作り、カーテンの内の温度を下げるるとともに、植物を育てる中で、自然を大切にしようとする態度を育てる

成果

- 出前授業を通して、地球温暖化が深刻な問題であることが分かり、自分たちにできることを考えることができた。
- 全員が、グリーンカーテンが太陽の光を遮り、室内を涼しくすることが分かった。
- 琉球朝顔の水やりなどの世話を通して、自然を大切にしようとする姿が多く見られた。
- 外の気温と室内の気温を図る実験を通し、グリーンカーテンが温度を下げるのに有効だと分かった。

感想・課題等

今回、グリーンカーテンづくりをなぜ行うのか、子供たちの目的意識を高められるように「出前授業」を設定した。ツバルの動画やパズルづくりを通して、地球温暖化が大きな問題であることや環境によい生活について分かり、たいへんよかった。

子供たちの感想では、「海にしずんでしまう国があることをはじめて知りました。」「これからはごみをしっかり分べつして捨てます。」「エコな生活をしていきたいです。」などこれからの生活にしっかり置き換えて考えられていることが分かった。

また、グリーンカーテンづくりでは、これまではヘチマとツルレイシを使っていたが、うまくカーテンにならなかった反省を踏まえ、琉球朝顔を使うことにした。すると、どんどんツルが伸び、青々した立派なグリーンカーテンができあがった。花も咲き、校庭から見た景観もよいものとなった。

グリーンカーテンの内と外の温度差を見る実験では、理科の学習と関連付けながら、実験することができた。学習の最後に行った振り返りでは、「グリーンカーテンが温度を下げることが分かった。」「エアコンを使わなくてもすずしかった。」「自分の家でも来年、グリーンカーテンを作りたい。」など、あがった。

グリーンカーテンの世話を通して、学年園の水やりやゴミ拾いなど環境を整えようとする態度も育ってきた。

活動報告（活動写真）

出前授業の様子



出前授業の様子



グリーンカーテンの様子



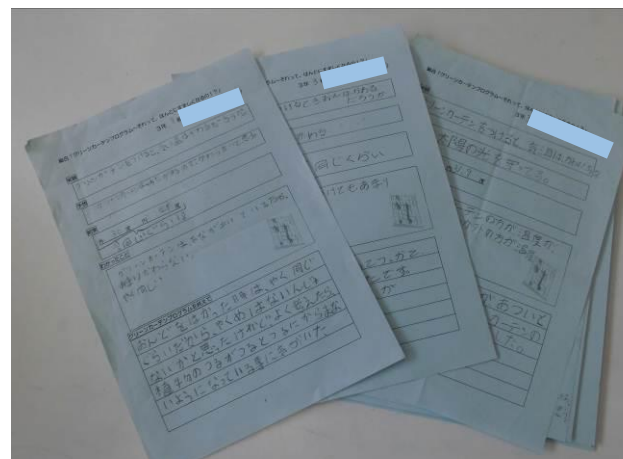
琉球朝顔に水やり（夏休み）



グリーンカーテンの内と外の温度差実験の様子



実験ワークシート



この学習を通して、温度計の使い方が身に付き、その後の理科の「太陽の動きと地面のようすを調べよう」で、実験観察がしっかりできた。また、温度差が2～5度あり、効果があったことを実験を通して気付かせることができた。

学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	2年生72名、4年生73名 環境整備委員会、理科委員会
活動名	ふたば小グリーン・エコプラン		
指導者	学内指導者：2学年担任（奥澤・畑・庄山）4学年担任（大矢・外池）委員会担当教諭 学外支援者：えどがわエコセンター・大和地 弘一、江戸川区子ども未来館・高木 嘉雄 公益財団法人日本環境協会 高田 直子、吉野 栄一、岡本 正義		

目標

- 自然や環境に関心をもち、生命尊重や自然愛護、地球環境を大切にする態度を育てる。
- 学校近隣の自然や、そこに生きる生き物について調べることにより、自然環境についての学習を深める。
- リサイクル活動などを通して、環境保全やリサイクルに対する意識を高める。
- 植栽活動を通して、緑化や美化の推進に対する意識を高める。

成果

- 環境教育プログラムの授業を通して、エコ活動や生きものについて学んだことで、子供たちの環境への意識を高めることができた。また、環境保全や生命尊重、自然愛護など地球環境を良くしていくために努力していくことの大切さや素晴らしさについて考えることができた。
- 委員会活動として、リサイクルやごみの分別及び地球温暖化防止についての集会を行ったり、学校応援団の方々と植栽活動を行ったりしたことで、学校全体に環境問題を提起することができた。また、学校応援団の方々とふれあいを通して、地域の中の一人としてどうあるべきか、何ができるかを考えることもできた。今後は、環境教育をより推進していくために、年間を通して計画的に意図的に活動させていくことが課題である。

感想・課題等

- 様々な環境学習を体験的に取り組むことによって、その重要性を子供たちに再認識させることができた。環境学習は、知識の伝達に偏りがちになってしまったり、学んだ実感が得られにくかったりするなど、学習動機も薄い場合が多い。しかし、エコセンターの方々が来校し、子供の実態と学びのニーズに合わせながら、様々な教材を用いて、体験的に授業をしてくださったことで、子供たちが課題意識をもちながら、最後まで主体的に学習活動に取り組むことができた。児童にとっても、学んだことをこれからの生活で活かしていくためのいい学習の場となり、貴重な機会をいただけてありがたかった。教科との関連も図られ、有意義な学習となった。
- 学校内の身近な生きものを題材にし、自ら探して観察することで、自然についての興味関心が非常に高まった。自然愛護や環境共生について、自分の生活から考えることができた。プログラム実践が学校公開日であったので、保護者の方々からも、学習したことを家族に伝えていたなど、好意的な感想が多く寄せられた。

活動報告（活動写真）

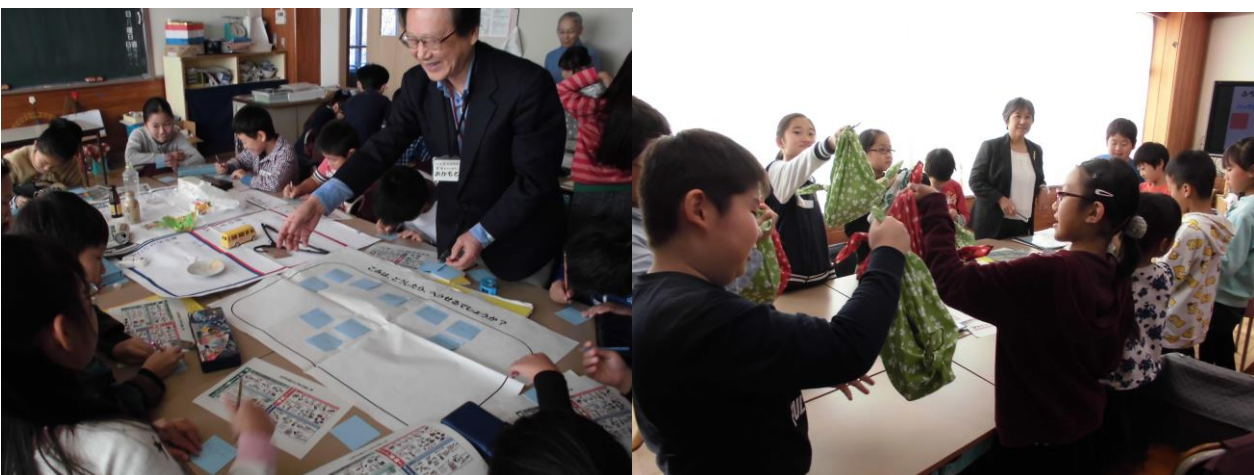
2年生・身近な生きものにふれてみよう



環境整備委員会集会



4年生・あなたはどうやってごみを減らしますか？



学校名	鹿本小学校	対象学年と人数	4年 31名
活動名	鹿本グリーンプラン		
指導者	学内指導者：岩井恵理香 雨貝幸輝		

目標

理科のツルレイシの栽培を通して、自然や環境に関心を持ち、生命尊重や自然を大切にする態度を育てる。

成果

- 栽培活動を通して野菜の成長に興味を持ち、愛情をもって育てることができた。
- 自分で育てたものを食べることで、生命尊重や自然環境を大切にしなければならないと考えることができた。
- 植物の季節ごとの様子を観察し、観察カードにまとめることができた。

感想・課題等

- ツルレイシを苗から育て、身を収穫し種ができるまで観察を行い、植物の育っていく様子を知ることができた。また、自分で育てたものを食べることで、植物に対する興味や愛着を持たせることができた。
- 植物の季節ごとの様子を観察し、植物の成長の過程を自分の目で見ながら学習することができた。
また、育った身から採取した種を植えると、もう一度育てることができると気付くことができていた。
- これらの活動を豊かにしていくために出前授業などを取り入れて、より実践的な学習を行えるようにしていきたい。

活動報告 (活動写真)

苗植え

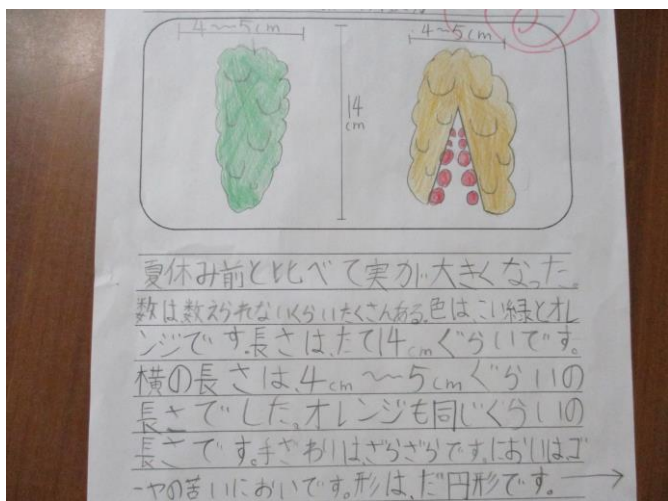


収穫



観察

種



学校名	鹿骨東小学校	対象学年と人数	全学年 474名
活動名	学校や地域の自然と仲良くなろう		
指導者	学内指導者：本田貞美（副校長）岩崎保佳・中村公美（グリーンプラン担当教員）他全教職員（活動指導） 学外支援者：グリーンボランティア（栽培活動支援）12名 えどがわエコセンターボランティアの皆様7名		

目標

- ・学校や地域の自然（都立篠崎公園・鹿骨親水緑道）の観察等を通して、身近な自然に関心を持ち、自然と親しみ関わりあう子どもを育てる。
- ・花の町鹿骨にある学校として、栽培活動に取り組み、自然を愛する心をそだてる。
- ・地域の環境に関心を持ち、3R活動等を学級で取り組む。

成果

本校では、「鹿骨東小学校ふるさと学習」として、カリキュラムの中に学校や地域の文化や自然に関心をもつ学習を行ってきた。その中でグリーンプランでは「自然と親しむ活動」「花や野菜を育てる活動」「環境をよくする活動」を体験を通して行うことができた。

自然と親しむ活動では、近くの篠崎公園や親水緑道などで生き物探しや自然観察を行い、自然と関わる機会が増え、地域の自然への関心が高まり、地域を愛する心を育てることができた。12月に行った学校教育活動についての保護者アンケートでも、「地域を活用し、多様な体験を行っている」ことが95%以上の保護者から「できている」と評価をいただいた。

今年度より栽培活動を支えるボランティアとして、「グリーンボランティア」を組織し、栽培園などの夏の草取り、水やり活動を支援していただくことができた。子供たちも、中庭の草取りやプランターの水やりなど自発的にし、育てることに喜びをもてる児童が増えた。

落ち葉の時期、学校の周りの落ち葉掃きを自ら進んでする児童も現れて、児童にボランティア精神の成長も見られた。

感想・課題等

2月にはエコセンターの支援で5年生で「地球の環境問題って何だろう？」6年が「燃料電池ってなんだろう？～地球温暖化をふせぐために～」と環境学習を実施する。自然観察をしたり、環境学習出前授業で学んだり、自分から調べたりすることで、身近な環境に関心を持ち、自分との関わりを知ることが、エコ活動やボランティア活動、栽培活動など、自らが参加できる活動へとつながると思う。

インターネットで調べる以外に、実際にその場を観察することや、幅広い知識を得るために図書館を活用することなど、子供たちには自ら積極的に学ぶことができる力を身に付けさせたい。また、エコセンターをはじめとする地域や保護者の協力は子供の学習の大きな支援につながるので、今後も地域や保護者との協力体制を大事にしていきたい。

活動報告（活動写真）

学校や地域の自然と親しむ活動



6月30日
学校の脇を流れる鹿骨親水緑道の生き物調べ（2年生）



篠崎公園自然観察 4年生
4月、6月、12月、2月季節の生き物の様子を観察

見つけた生き物を教室で観察し、調べ、育てる



花や野菜を育てる活動



6月、地域のアサガオ栽培農家の方に、のびたつるの手入れなどアサガオの育て方について教えていただく（1年生）



収穫した後のひょうたんは水につけ、種取をし、乾燥させてから、絵付けをした。

春からひょうたんの栽培をし、今年は80個以上収穫。夏の水やりにはグリーンボランティアの皆さんにも支援をいただく。（4年生）



環境をよくする活動



児童集会では「もったいない運動集会」で、3Rなどのごみの分別や給食の残菜を減らすことを訴えた。



5月 学校応援団組織の一つとして、グリーンボランティアを募り、栽培活動の支援をお願いした。

グリーンボランティアには、5年生の米作りで、「田植え」「稲刈り」「脱穀」などの作業の支援や、中庭の花の寄せ植えなどの環境作りにも協力をいただいた。

えどがわエコセンター・グリーンプラン推進校最終報告

学校名	南小岩第二小学校	対象学年と人数	4年生（78名）
活動名	すすめ！エコロ人！（総合的な学習の時間）		
指導者	学内指導者：小島雄貴 吉田朋美 学外支援者：えどがわエコセンター大塚留美さん、水上泰輔さん、池田進さん		

目標

江戸川区でエコ活動をしている人の思いに触れ、江戸川区のエコに対する取り組みを知ること、自分たちの未来の環境について考え、自分の生活に生かそうとする。

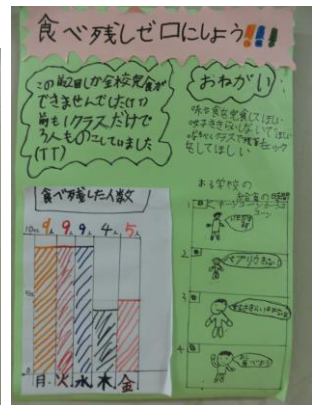
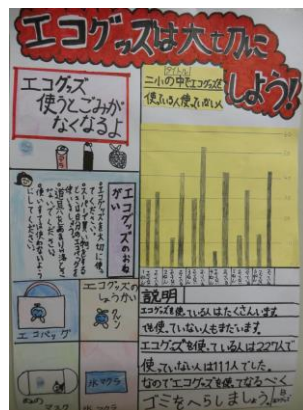
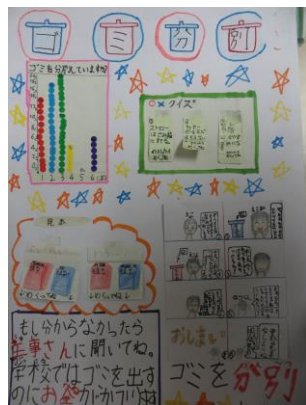
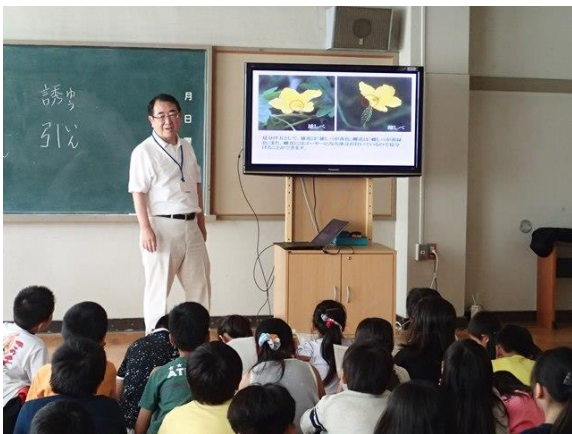
- ごみ問題とエコ活動の必要性
- 環境の保全や資源の有限性に対する理解とそれらの活用
- 食生活を取り巻く社会問題や現状と自分たちの生活とのかかわり

成果

- ①児童は、江戸川区広報課の「えどがわ区民ニュース」の食品ロスのトピックをきっかけにしてエコについて興味をもった。
- ②他の学年の児童や主事にアンケートやインタビューを行い、エコ活動についての情報を集めた。
- ③担任が読書科でエコについて資料を用意したところ、児童は理科で学習した「ツルレイシ」のグリーンカーテンと結び付け、「グリーンカーテンでエコに取り組みたい。」という思いをもった。思いが強まった児童は、自主的に「環境フェア」に参加し、グリーンカーテンについて学んだ。
- ④「グリーンカーテンの作り方が知りたい。」と、児童は国語で学習した「手紙の書き方」、「丁寧な言葉遣い」を活用して、エコセンターの大塚さんに電話で連絡を取り、ゲストティーチャーとしてエコセンターの方々をお呼びすることができ、グリーンカーテンについて詳しく学んだ。
- ⑤学級会では、「グリーンカーテンにするか。」「カーテンを屋根上にしてトンネルにするか。」で意見が分かれ、根拠を示しながら議論をした結果、トンネルにすることに決まった。グリーンプラン推進校としての予算で、トンネルを作るための鉄パイプの枠を設置した。児童は、今年度限りではなく、来年以降も継続して活用することも視野に入れている。
- ⑥児童はグリーンカーテンと同時並行で「節電」や「エコグッズ」を調べたり、社会で学習したごみ問題から「ごみの分別」や「食べ残しゼロ」を呼びかけたりした。その際、パソコンで抽象的な情報を集めるよりも校内を歩き回ってインタビューやアンケートを取ったり、実際に食べ残しや分別状況を見て回ったりして現状把握に努めた。現状をわかりやすくまとめるために算数で学習した「棒グラフ」「折れ線グラフ」だけでなく、5年生で学習する「円グラフ」も児童自ら調べてポスターに取り入れてまとめた。
- ⑦5年生になったら、委員会活動が始まる。児童の振り返りの中には、「美化委員になれば、ごみの分別がもっと進められる。」「保健給食委員になって、食べ残しをゼロにする。」とこれからの自分の生活の仕方を考える児童が多く見られた。
- ⑧ツルレイシの種はとっておき、3年生への「グリーンカーテン引き継ぎ式」を行った。

感想・課題等

児童がエコ活動の必要性を感じ、主体的にエコ活動に取り組むきっかけになった。教師が主導するとどうしてもやらされている感が出てしまうが、グリーンカーテンを提示することで、児童が自主的に活動したり、ゲストティーチャーと関わったりすることでエコを自分事として捉え、日常の活動の変化へとつながったのだと思う。また、実ができたことを喜びながら、自分たちが普段口にしてる食材がどのように作られるのかを学べたことも成果としてあった。さらに、グリーンカーテンから発展して、節電や節水、3Rにも取り組むことができた。今後も継続して活動できるように計画を立てていく。



学校名	中小岩小学校	対象学年と人数	全学年 366名
活動名	中小岩小の環境学習		
指導者	学内指導者：全教職員（児童管理・指導） 学外支援者：えどがわエコセンター（講師） （役割分担）学内指導者が目的に応じて学外支援者と連携し、児童の理解を深める。		

目標

- 学校における環境保全活動の更なる推進
- 児童・家庭・地域の環境保全活動への理解の推進（全学年における環境学習の実施）

成果

◎えどがわエコセンター、小岩清掃事務所等、多くの方々の協力を得ることができ、学年の実態に応じた環境問題に触れ、子どもたちが実感をもって環境保全の大切さを学ぶことができた。

☆環境教育プログラム（えどがわエコセンターとの連携）

- 1・2年生「地球の環境にやさしい生活を学ぶ E☆カプセル」
- 3年生「身近な生き物（自然）にふれてみよう」
- 4年生「3Rって何だろう？」 「ごみの分別」（小岩清掃事務所）

☆環境学習（校内）

- 5年生「江戸川について学ぼう」
- 6年生「地球の環境問題について学ぼう」

☆環境委員会による環境保全活動

井戸水利用の井戸水汲み、校庭の池の清掃活動、省エネのポスター作り、全校への呼びかけ

☆全児童による環境保全活動

- 雨水ダムを使った花の水やり（1，2年、みどり学級）
- 節電（3，4年） 節水（5，6年）見回り活動による省エネ
- ごみの分別の徹底 紙のリサイクルの促進

☆教職員、PTAによる環境保全活動

花植え、壁面緑化等の推進

☆こどもエコクラブへの登録

エコチルの配布等を通し、様々なエコ情報の共有

感想・課題等

◎今年度、学区内という身近にある江戸川について、資料などをもとに学習をすることができ、第一歩を踏み出すことができた。今後、四季を通じた観察や、体験活動を取り入れる等、今後も江戸川を通じた環境学習を進めていきたい。

◎全校の子どもたちに、「エコの学校・省エネ共和国」としての意識は定着している。今年度の学習や活動を元に、次年度以降も引き続き環境学習を推進し、環境保全活動の更なる充実を図ってきたい。

活動報告（活動写真）



1・2年生 地球の環境にやさしい生活を学ぶ E☆カプセル



3年生「身近な生き物にふれてみよう」



4年生「3Rって何だろう？」



5年生「江戸川について学ぼう」



6年生「地球の環境問題について学ぼう」

学校名	小岩第三中学校	対象学年と人数	全学年有志 43名 1学年 191名
活動名	三中の環境プロジェクト		
指導者	学内指導者：永野 美智代 学外支援者：日高 久仁子（学校応援団）、イノシシクラブ、PTAの方々 えどがわエコセンター、えどがわ環境財団、（株）東京ガス		

目標

1. 地球温暖化を防ぐための方法として燃料電池を学び、また校内の緑化活動に取り組む。
2. 身近な野生生物を観察・調査することにより、自然環境に興味を持たせ、環境保護の意識を高める。

成果

1. 燃料電池

1年生が（株）東京ガス主催の出前授業「燃料電池」を受講した。風力発電、太陽電池などを学んだ後に、生徒一人一人が燃料電池キットを用い、「水素と酸素から電気を作ることができる」ことを体験した。生徒たちは、大気をよごさないエネルギーを自分たちでつくることができることに驚き、地球温暖化防止に貢献するエネルギーの素晴らしさを学ぶことができた。

2. 屋上緑化

屋上に、クウシンサイ、モロヘイヤ、ミニトマト、サツマイモ、サトイモ、ジャガイモ、ニンニク、ピーマン、サニーレタス、サンチュ、ガーベラなどを種や苗から育てた。週に2～3回の緑化活動では、小さな種子からの植物の成長に目を見張り、雑草取りの大変さを知り、収穫の喜びを味わうことができた。

また、屋上で野菜を育てることにより、都会のヒートアイランド現象を防いでいること、身近で野菜を育て食することで、輸送に用いるエネルギーを使わなくてすむ地産地消を理解し、実践することができた。

3. 学校花壇の整備

校舎前の花壇に、サフラン、スイセン、ムスカリの球根、コデマリ、ヤマブキの苗木、菜の花の種をまき、愛情を持って育てることができている。また、えどがわ環境財団の協力・指導のもとに、生徒登校門にウエルカム・ガーデンを設置し、生徒が気持ち良く登校できる環境を、自分たちで作ることができた。

4. 生き物調査・自然観察会とピオトープ

江戸川の生き物調査を2回実施し、ホウネンエビ、ドジョウ、アマガエルや絶滅危惧種のメダカ、トウキョウダルマガエルなどの身近な生き物とふれあった。捕まえた生き物は、再び自然にもどしたが、メダカ5匹は持ち帰り、学芸発表会で展示をした後に予算で購入したピオトープ用の池に放したところ、繁殖を確認した。近年の外来種問題を考えると、その土地の自然を再現するピオトープの意義は大きい。

感想・課題等

地球環境の問題解決のためにすこしでも役に立ちたいと、グリーンプラン推進校に立候補したが、緑化活動や生き物調査・自然観察会は生徒の心を癒やし、気持ちを安定させる働きがあることが活動を通して実感できた。

上記の成果は、今年のみでなく、継続的に行って行きたいと思っている。身近な自然に感動する心が、環境問題を解決していく活動の力になっていくと思う。

活動報告（活動写真）



校舎の前の花壇にスイセンなどを植える



サフランを育て学芸発表会に展示。北小岩まつりでは70周年の文字に



屋上菜園で収穫したニンニク、ジャガイモ、ミニトマトを使ってカレーパーティ



江戸川水質・生き物調査



ビオトープ

学校名	上一色中学校	対象学年と人数	全校生徒308人
活動名	上一色グリーンプラン		
指導者	学内指導者： 副校長 要務主事 学外支援者： 学校応援団 （役割分担）生徒ボランティア・アクアポニックス担当		

目標

- ・アクアポニックスを利用して環境学習を行う。
- ・学校応援団の協力を得て、学校内の花いっぱい運動を広げていく。
- ・1年生のえどがわエコセンター出前授業で、環境について考えるきっかけをつくる。

成果

- ① 今年度から教員の担当が変わり、新しい体制を作った。係りも全校朝礼で話をしてボランティアを募った。生徒たちが関心をさらにもってくれるようになり、水槽清掃のボランティアも申し出てくれた。まわりの生徒へのよい影響となり、アクアポニックスというオリジナルの循環型生態系への関心が高まった。
- ② 花の植え替えの時は、ボランティアが集まるようになり、他の場面でも生徒が気持ちよくボランティア活動をし、活動が少しずつ広がっている。上級生から下級生へ活動の内容を伝え、緑のカーテンなどにも取り組んでいきたい。
- ③ アクアポニックスから持続可能な社会に必要とされる能力を生徒に意識づけ、広げることができた。1年生は3学期に学ぶ環境学習への導入となった。

感想・課題等

（1）ボランティアの生徒の感想

- ・今までよりも、アクアポニックスについて注意して見るようになった。金魚が元気で成長しているとほっとする。このしくみを他にも知らせてあげたい。
- ・花のある学校はうれしいです。校門前は四季を通じて花がさいていて好きな場所です。
- ・金魚の水槽を掃除しました。循環がうまくいってないと心配になります。掃除は友達と4人で行いました。分解するのは大変だったけれど、きれいになって良かったです。金魚の水槽が循環によってきれいなままなのはすごいなと思った。

（2）課題

- ・今回のアクアポニックスの作成者が異動し、当初はボランティアを決めたものの順調な始まりではなかった。もう少し、学校全体としての活動になるよう教員への理解との意識を高めておく必要を感じた。
- ・3学期に1年生はえどがわエコセンターのご協力をいただき、環境学習を予定している。現3年生も1年生で環境学習をさせていただいた。学校としての環境学習の取組を整備していきたい。
- ・今年度の活動は、ボランティアの活動に頼る部分がほとんどだった。生徒の主体性を大切にし、活動方針を計画して、実行するような活動を目指していきたい。

活動報告（活動写真）

アクアポニックス・・・レタスが育ちました。蛍光灯の光だけなのにきれいなグリーンです。



学校前の花壇はいつもきれいな花が咲いています。生徒のボランティアが世話をしてくれました。



1年生は、3学期に環境学習を実施します。先日、エコセンターからいただいた「江戸川生き物図鑑」を各クラスで読んでみました。魚・鳥・底生動物についての知識が増えました。





発行： 特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>
